



まめまき



節分とは、もともと季節の変わり目で立春・立夏・立秋・立冬の前日のことを言います。暦の上では、春から新しい年が始まったため、いつの頃からか立春の前日だけが節分となり、春への折り目として3日ごろに行われています。神社や寺では、面を付けた鬼に向かって豆をまいて退散させる追儺や年男たちが豆をまくところもあります。豆には、穀物の霊が宿っていると考えられていたからです。

いわしの頭を家の入り口に刺したり、^{ひいらぎ} 柵の木の枝を刺したりするのは、鬼はいわしが嫌いなので逃げていくため。柵は、枝にとげがあるので鬼が恐れているからだと言われています。

保育園でも豆まきをしますが、自分の心の中にある“ちょっぴり意地悪鬼”“泣き虫鬼”“怒りんぼ鬼”などを追い出して、元気な子どもに成長してくれることを願っています。



お茶会 ～白組～

日時：2月27日（水）午前10:00～
場所：5階ホール

ご近所にお住まいの、近村宗恵先生をお招きして、白組さんがお茶をいただきます。

日本古来の伝統に触れ、お点前を見たり、おいしいお菓子、お茶をいただきながら心静かな雰囲気を楽しみたいと思います。

白組の祖父母のみなさまで、ご参加いただける方は、ぜひご来園ください。



おねがい

25年度の保育申請は、お済ですか？
まだの方は必要書類をそろえて、できるだけ速やかに申請を行ってください。

「遊びの大切さ」

月日がたつのは早いものです。平成24年度もあと残すところ僅かとなりました。4月になると子どもたちはそれぞれ進級し、きりん組の子どもたちは第二園舎へと移っていきます。みみょうの特徴であった少人数の家庭的雰囲気から大きな保育集団へと移行していきます。また、今までの保育士1人に対し園児6人という関係から、3歳児クラスになった途端、1対20人の関係になります。当初は、身近にいた保育士が遠い存在に感じ、不安や緊張感を持つ子どももいれば、自然に環境に溶け込む子、新しいお友だちの動きを見ながらそれなりに合えず子、糸の切れた凧のように保育室から飛び出て走り回る子、様々な様子が想定されますが、大人の不安をよそに、子どもたちは、あっという間に新しい環境に慣れていきます。大きな保育集団ということは、決して悪いことばかりでもありません。様々な物的環境・人的環境に恵まれています。楽しい総合大型遊具やおもちゃもたくさんあります。いずれにせよ、早く環境に慣れてもらうためにも、これからの時期は機会あるごとに第二園舎に遊びに行きたいと思えます。子どもたちが少しでも戸惑わないよう様々な配慮をまいりますのでご安心ください。

さて、少人数の保育園であれ、大人数の保育園であれ、みみょうの保育の原点は「遊び」であると考えます。「遊び」の本質は、やりたいという「自主性」と自分を抑えるという「自律性」の両義性（相反する二つの側面）がありますが、発達段階に応じて身につくもので、一気に身につくものでもありません。子育ての基本（人格形成の過程）は、4層の構造であると言われていいます。「1～2歳は心の安定」→基本的信頼関係の構築、「2～3歳は自主性」→自我の目

覚め、自立心、「3～10歳は社会性」→遊び、戯れ、けじめ、「10歳～は知性」→学問・知的教育です。つまり、みみょうの子どもたちは、今、心の安定をはかりながら、社会性を身につける時期にあると言えます。では、どうすれば身につくのか。その答えは、「遊び」を中心とした保育（子育て）であり、子どもの群れがないと身につかないものと考えます。

遊びは、子どもにとって生活のすべてと言ってもよく、成長にとって大切な学習とも言えます。幼児の遊びは、はじめは個人遊びが中心ですが、段々と一人より仲間がいた方が遊びが楽しくなることに気が始め、より多くの友だちを求めようとなってきます。そして、友だちと楽しく遊ぶために、自分の考えを上手く伝えようと言葉を考えたり、タイミングを工夫するようになります。また、友だちと意見が違うことで相手の考えを認めて受け入れようとします。

しかしながら、最近の子ども「遊び」の傾向として、「ごっこ遊び」が少なくなっているという声を聞きます。ごっこ遊びは「うそ（虚構）」と「ほんとう（現実）」の狭間の領域ですが、大人が子どもたちを育てていくうえで身につけさせたい問題解決能力が身につきます。「ごっこ遊び」は必ず経験してほしい「遊び」のひとつです。

みみょうでは、日常的に「ごっこ遊び」が盛んに行われております。おままごどが人気ですが、そのうちに人形を出してきてお母さん役になり、お世話ごっこに発展しています。そこには友だちとのかかわりがあり、小さな社会があります。ごっこ遊びに夢中になっている今をあたたく見守りながら、進級までの時間を大切にしていきたいと思います。

みみょう保育園園長

立春

節分の次の日を言い、この日から季節は春になります。まだまだ寒い日が続くこともありますが、地中や自然の生き物は春の盛りに向けて成長を続け、春の気配も感じるようになります。

広島でも、下旬頃にはタンポポが開花するなど小さな春が見られるようになるので、お天気のいい日は、お子さんと手をつなぎ、近くを散歩したり、市内の川土手を歩くなどして、野草の開花や木々の芽吹き、風の匂いを感じるなど心豊かな時間を過ごしてみたいかがでしょうか？



子どもたちの寝顔に何を感じますか？



子どもの寝顔に、この子や、私たちの未来を感じることがありますか？
あなたのお父さんやお母さんは、あなたが小さかったときの寝顔に、何を感じていたのでしょうか？

子育てルネッサンス運動
社団法人全国保育園連盟 子育てメッセージ より



消さないで
あなたの心の
注意の火